

『VIEW21』高校版・2019年度「実践AL」授業デザインシート

【教科・科目】	国語・国語総合(現代文領域)
【指導のめあて】	
【テーマ・作品】	説明的文章の聴解を通して文章の論理構造をつかむ
【設定時数】	全18時間(今回の取材対象は17・18時間目の授業)
【単元の目標】	論理的思考力・判断力・表現力を育てる

時数	学習内容	自校の生徒の特性を踏まえた各時間における教育目標(身につけさせたい資質・能力)	左記の資質・能力の「学力の3要素」への分類	授業の大まかな流れ	授業における3つの視点の学びに対する指導内容・教師の配慮			育成を目指す資質・能力の評価方法
					主体的な学び	対話的な学び(教師による場づくりへの配慮)	深い学び(教師による思考の活性化・深化への配慮)	
1	①《マイコン》01	①話し手を見て聴くことができる。	思考力、表現力	・マイコン	・自分が興味・関心を持っている事柄について1週間に1つピックアップする。	最初の授業なので、グループ内での「話す順番」を予め指示し、全員が発言できるようにする。	・日本語(力)は「自然に身についた」ことを自覚させるとともに、そのことのメリットとデメリットを考えさせる。	・マイコンへの取り組み確認
2	②小学校・中学校での国語学習を振り返る。 ③「意図的に国語を学ぶ」を定義する。	②「学ぶ＝受動的な学び」でなかったかを確認できている。 ③「意図的に学ぶ」と「自然に身につく」との違いが理解できる。	知識	・教材『思考ルート』 →今までの学習スタイルを検証する。(個の学び) →グループで「意図的に学ぶ」ことを定義する。				
3	①《マイコン》02	①話し手を見て聴くことができる。 自分の気持ちを態度に表しながら、聴くことができる。	思考力、表現力	・マイコン	・自分が興味・関心を持っている事柄について1週間に1つピックアップする。	一人ひとりの生徒がグループワークの中で「日本語運用能力は個人差が大きい」ことに気づくことができるように、発問を行う。	・言語、認識、コミュニケーションの不可分性について着目させる。	・マイコンへの取り組み確認 ・テキストへ『思考ルート』への取り組み
4	②「言語・認識・コミュニケーション」を定義する。 ③日本語の構成単位を整理する。 ④「論理的であること」を定義する。	②④語彙的な定義ではなく、現象的に定義できる。 ③知識の不足の有無を確認している。	知識	・教材『思考ルート』 →言語・認識・コミュニケーションについて定義する。(個の学び) →一つの定義を持ち寄り、グループで定義を纏め上げ、全体に発表する。 ・教材『論理エンジン』OS1	・体験により定義する。			
5	①《マイコン》03	①話し手を見て聴くことができる。 自分の気持ちを態度に表しながら、聴くことができる。	思考力、表現力、主体性	・マイコン	・自分が興味・関心を持っている事柄について1週間に1つピックアップする。			・マイコンへの取り組み確認
6	②説明的文章の読解ルートを確認する。 →アウトライン読みとディテール読み ③自分の「読み癖」を認識する。	②③速読と精読との違いを理解できる。	知識、技能	・教材『思考ルート』 →文章の読み方の2スタイルを理解し、それぞれのメリットとデメリットを確認する。 ・教材『論理エンジン』OS1	・自分の読み癖を端的に説明する。			・『論理エンジン』への取り組み
7	①《マイコン》04	①自分の気持ちを態度に表しながら聴くことができる。 メモを取りながら聴くことができる。	思考力、表現力、主体性、技能	・マイコン	・自分が興味・関心を持っている事柄について1週間に1つピックアップする。		・「広い視野を持つこと」「深く洞察すること」とは具体的にどういふことなのかに気づくことができるようにする。	・マイコンへの取り組み確認 ・ワークシート
8	②説明的文章の聴解Ⅰ 「教材」2008年度慶應義塾大学経済学部小論文入試問題 小菅正太(旭山動物園)革命一歩を表現した復活プロジェクト A:情報収集・分析と視座の構築	②速読しながら「情報」をピックアップしている。 ・なぜその「情報」を必要だと判断したかを説明できる。		・教材『大学入試過去問題』 →各自でアウトライン読みを行い、設問(2つ)に解答する。(個の学び) →各自の解答を振り返り、その構成を整理する。	・論理的に仮説を立てる。			
9	①《マイコン》05	①自分の気持ちを態度に表しながら聴くことができる。 メモを取りながら聴くことができる。	思考力、判断力	・マイコン	・自分が興味・関心を持っている事柄について1週間に1つピックアップする。	モデレーター中心のグループ議論を深めさせる。	・自分の主張が相手に伝わるために必要な条件とは何か、さらに、伝わるだけでなく同意を得るために必要な条件とは何かに気づくことができるようにする。	・マイコンへの取り組み確認 ・相互評価シート
10	②説明的文章の聴解Ⅰ B:自分の考えをPREPに落とし込む。 C:メンバーの主張を聴取する。 D:グループ主張のまとめとプレゼンテーション	②設問に応じて、自分の思考ルートをPREPで示すことができる。 他者の考えと自分の考えとの差異を意識して聴くことができる。	知識、技能、主体性、多様性、協働性	・教材『大学入試過去問題』 →各自の解答を持ち寄り、グループとしての解答を作る。 →グループごとに課題に対する主張を発表する。 →発表についての評価を行う。				
11	①《マイコン》06	①発表者のPREPを意識してメモを取ることができる。	技能、判断力	・マイコン	・自分が興味・関心を持っている事柄について1週間に1つピックアップする。		・論理的であることは「極めてわかりやすい」ことだということを説明できるようにする。	・マイコンへの取り組み確認 ・『論理エンジン』への取り組み
12	②日本語運用能力を定義する。 ③「つながり」および「要点」と「飾り」とを整理する。	②日本語運用能力の到達レベルを確認している。 一文の要点を指摘することができる。 「つながり」=「論理」を理解することができる。	知識	・教材『論理エンジン』OS1 →特に「一文」の要点に論理的なアプローチができるようにする。				
13	①《マイコン》07	①発表者のPREPを意識して聴くことができる。 自分に置き換えながら聴くことができる。	主体性、判断力	・マイコン	・自分が興味・関心を持っている事柄について1週間に1つピックアップする。	生徒が「主体的聴き取り」を実感できるよう(行動的に聴き取ることができるよう)読みのスピードを意図的に変化させる。	・行動(動作)を伴って聞くことの効果を説明できるようにする。	・マイコンへの取り組み確認 ・聴き取りメモ、ワークシート
14	②説明的文章の聴解Ⅰ 「教材」教科書【東京書籍】『水の東西』山崎正和 A:クリティカルに聴く。(うなづきと首かしげ) B:聴き取りメモをPREPに落とし込む。	②話し手(山崎さん)が「何について」「どのような手順で」「何を」話してくれたのかを聴き取ることができる。 自分の気持ちを態度に表しながらメモを取ることができる。	思考力、判断力、技能	・教材『『水の東西』』 →出典を伏せた状態で「山崎さんのお話」を聴く。 ・メモを取りながら聴く。 →聴き終わったらメモを整理する。 →ワークシートに取り組む。	・行動(うなづき、首かしげ)しながら聴解する。			
15	①《マイコン》08	①発表者のPREPを意識して聴くことができる。 自分に置き換えながら聴くことができる。	主体性、判断力	・マイコン	・自分が興味・関心を持っている事柄について1週間に1つピックアップする。	グループでの話し合いではモデレーター中心に議論を深めさせる。	・論理マップとは「見ることができない頭の中を見える化した物」であることを指示する。	・マイコンへの取り組み確認 ・論理マップ
16	②説明的文章の聴解Ⅰ C:グループで論理マップを作成する。 D:マップ・デザインを試行する。	②自分たちにとって最善の論理マップを見つけていく。	思考力、多様性、協働性、技能	・聴き取りメモとワークシートを持ち寄り、論理マップを作成する。 →論理マップを使ってプレゼンテーションを行う。 →相互評価を行う。				
17	①《マイコン》09	①発表者のPREPを意識して聴くことができる。 自分に置き換えながら聴くことができる。	主体性、判断力	①《大集団の学び》マイコン:10分 ②《個の学び》聴解:10分 ③《個の学び》聞き取りメモの整理とワークシート:10分 ④《小集団の学び》相互発表、内容整理:20分 ⑤《小集団の学び》付箋の作成と論理マップデザイン:20分 ⑥《大集団の学び》相互プレゼンテーション:25分 ⑦《個の学び》自己評価:15分	・自分が興味・関心を持っている事柄について1週間に1つピックアップする。	「感覚(感情)的な落とし所」で満足するような話し合いにならないように巡回確認をする。	論理マップのデザイン根拠を確認することを通して、思考ルートを端的に具現化するためのよりよいマップを検討させる。	①ワークシートの評価 ②付箋の内容についての評価 ③論理マップデザイン根拠についての評価 ※プレゼンテーションの巧拙は評価しない。
18	②説明的文章の聴解Ⅱ A:クリティカルに聴く。(うなづきと首かしげ) B:聴き取りメモをPREPに落とし込む。 C:論理マップを作成する。 D:論理マップに基づいてプレゼンテーションする。	②聴解→グループ議論→論理マップ→プレゼンテーションまでの一連の思考ルートをよどみなく実現できる。	思考力、多様性、協働性、技能		・論理マップの自分のデザインを提案する。			